

■昔はエアコンなしで過ごしていた自分をほめてあげたいくらい、暑い日がまだまだ続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか？本号は、学術大会（金沢）の予稿集を兼ねております。この学会誌が皆様のお手元に届くころには少しこの暑さが和らぎ、金沢では快適な気候で皆様にお会いできることをお待ちしております。

■リレーエッセイや関連集参加記では、若い研究者の方に執筆していただきました。村中さんは相変わらずの平常運転で、思いのたけをリレーエッセイにつづけてくれています。高さんはWCC参加記では的確に現地の様子をレポートしていただきました。

■次号はEBRS（フランス、リヨン）の参加記を掲載予定ですが、私も参加しましたのでその往路でのエピソードをご紹介します。今話題？の韓国経由で夕方パリに着き、夜TGVでリヨンまで向かいました。ちなみに、嫌な思いも暴行もさせられず韓国料理を堪能しました。1時間遅れのTGVでシャルルドゴール空港を出発し、1時間ほどたつと、突然石を引いたような衝撃を感じました。何事か！と様子をつかっているとフランス語オンリーでアナウンス。みんな一斉に「オーウ」と天を仰ぎました。？な私は乗客に聞いてみると、なんと人身事故とのこと。私も一足遅れて天を仰ぎました。結局4時間以上待たされた挙句、水や毛布の支給といったケアもないまま、別の車両に移らねばならず、夜中の3時に線路を重いトランクを持ちながら別のTGVに移動。車中でも隣の赤ちゃんと目が合って寝られないまま、リヨンに着いたのは朝6時。タクシー待ちでさらに30分以上待たされ、ホテルに着いた時にはへとへとでした。ただ、もったいないので、その日の夕方からのオープニング前に、リヨン観光しTGV内で現地乗客に紹介されたレストランで昼食を堪能。こんな感じで私のEBRSは始まりましたが、おかげで時差ぼけも後退ではなく前進気味でした…。翌日もTGVは牛さんを16頭もひき殺す事故を起こしているそう。良い経験になりました。

■執筆要項を改訂いたしました。総説が医中誌として知られる医学中央雑誌に抄録が掲載されるようになりました。また、現状に合わせた要項に改変いたしました。今後より分かりやすい・面白い学会誌にしたいと存じます。（池上）

■巻頭言は、本間さんと先生にご寄稿頂きました。研究室を閉じるこの大変さ、そして新しく始まった臨床医としての生活について書いてくださいました。研究室にあった莫大な機器や試薬などを、有効に使える人の所へ移動できるように、お骨折り頂いたご苦労には、感謝の言葉しかありません。有終の美を飾るのは、まだまだ先にして、益々ご活躍頂きたいものです。

■山崎先生には、「視交叉上核外概日ペースメーカー」と題した総説を寄稿して頂きました。英語で言うところの「extra-SCN」を、日本語でどう表記するのがよいか、著者の山崎先生、編集委員の沼野先生とともに、知恵を絞りました（ちょっと大きすぎ？）。分かりやすいように、誤解されないように、色々案を出し合って上述のタイトルに落ち着いた次第です。種々のextra-SCN振動体について分かりやすく解説して頂きました。存在は明らかなのに、なかなか捉えられない実体。明らかになる日が楽しみです。

■研究室へは、長崎大に赴任された中村渉先生。昨年長崎での大会の際には、大変お世話になりました。中村先生は、山崎先生とともに、私にとってはバージニア大の留学仲間です。「車はトラックでしょ」という山崎先生に感化されて（？）、金色のトラックに乗っていたのを思い出しました。懐かしい…。(吉川)

■いつも時間生物学会誌を購読いただきありがとうございます。これ書いているいま、まだまだ暑い。9月半ばになろうとしているのに猛暑日が続いたりしている。蟬が鳴いていないのに暑いのは個人的には許せない。熱さでばてたせいか痒疹が全身にでてきた。選唇を前にして体質変化。かゆい。

■理事就任と同時に編集委員会委員長を仰せつかってから二年が経ちました。実務については、相変わらず吉川、池上のお二方にほとんど丸投げ。すまん。しかしこの二年間で学会誌編集のプロセスが理解できコストダウンに成功しました。また、内容についても執筆者にお願いしてできるだけ個人の立ち位置にひきつけて個人的でよいから偏ってもいいからその人なりの見方を提供していただきました。意を汲んでいただき執筆者の汗をかいた過程がみえるような作品が集まりました。感謝。

■今号では、前号に続いて本間研一先生のヒトの概日リズムについての総説がいただけました。退職されてじっくりと執筆いただけの時間ができたと拝察。よいタイミングでお願いできたかと自画自賛。

■私も欧州時間生物学会行ってきましたよ。リヨンの第一印象はとにかく暑い。連日35度近い猛暑で、教室の空気が熱い。空調がボンコツ。でも参加者みんな元気だ。ただし私はぐったり。リyonはローマ時代の遺跡が残る世界遺産の街。誇るもののある街はよいですね。ヒトがおだやかです。

■遠藤周作さんが戦後すぐにリヨン大学に留学されてその経験を「フランスの大学生という」書籍にまとめています。狐狸庵先生に似合わぬ陰鬱な基調のエッセイです。「誰も日本のことを知らない。日本学の専門家以外はまったく日本の今に興味がない、侍がまだまだ闊歩している」と思っている。との記述があります。それから70年。街角の本屋を除けば日本のコミックのフランス語版が目立つところにおいてある。フランスは大人がマンガを読む国です。アニメとコミックの専門誌を購入しました。古本。2€。日本の作家さんの作品も紹介してある。きちんと作家さんに取材している。理解は進んだのか？侍がドラゴンボールになっただけかもしれませんが。

■駅の売店で“Science et cerveau “というタイトルの雑誌を見つけました。7.9€。”科学と脳”という雑誌があたりまえのように並んでいました。フランス人、脳を愛しているようです。それだけで好ましい人々と思ひ込める。帰宅後、開いてみました。読めない。うーん、雰囲気だけわかるのみ。仏語能力さび付くどころか腐蝕。

■学会中、Silver博士ご夫妻とブションで食事をする機会をもてました。新市街のAux 3 Mariesという店。ご夫妻、お二人ともチャーミングな方ですね。結婚後53年とのこと。若い頃に結婚されているようです。お歳はおっしゃいません。ただ想像できるもとも若い年齢であったとしても結構いつている（失礼。）。しかし活力にあふれていて世界中をたびまわっている。米国でのドクター取得後の身の振り方について伺うことができました。博士号をとったらアカデミア以外の就職口が限られる日本とは異なり、多種多様な職についているとのこと。日本では博士課程に進む学生が減っている。最高学府の先端までいってしまったら将来が不安っていったいどんな異なんですかね。日本変われよ。

■さて10月には日本時間生物学会総会ですね。金沢で行われます。さすがに涼しくなっていることでしょう。楽しみましょう。金沢だけにおいしいものがいっぱいでてくるに違いない。期待しております、三枝会長。（重吉）

時間生物学 Vol. 25, No. 2 (2019)

令和元年 10月 1日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://chronobiology.jp/>)

(事務局) 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学トランスフォーメティブ生命分子研究所
吉村崇研究室内
TEL/FAX : 052-789-4069

(編集局) Email : chronobiology.jp@gmail.com
〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 377-2
近畿大学医学部解剖学
重吉康史研究室内
TEL : 072-368-1031

(印刷所) Email : shigey@med.kindai.ac.jp
名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部